華岡青洲の妻

文学座に
受け継がれる
有吉佐和子
永遠の名作

作・有吉佐和子

演出・鵜山仁

文学座公演

小野洋子
石川武
つかもと景子
金沢映実
大原康裕
吉野正弘
畑田麻衣子
吉野実紗
釆澤靖起
奥田一平
川合耀祐
小谷俊輔
平体まひろ

華岡青洲の妻

作・有吉佐和子
演出・鵜山仁

時は天明。紀州に代々続く医家である華岡家では、母の於継と二人の娘、後継ぎである雲平（のちの青洲）の嫁加恵が仲睦まじく機織りに精を出している。姑である於継は、大庄屋の娘の加恵にとって幼い頃からの憧れの人であり、その於継に望まれて華岡家に嫁いだ加恵は、夫は遊学中のため不在であったが、あたたかな女所帯で幸せな日々を過ごしていた。
3年の月日がたち、雲平が華岡家に戻ると、女たちの関係性は一変する。雲平が目指す麻酔薬の完成のため人体実験に競って身を挺す姑と嫁。美談として語られる女の闘いを雲平の妹小陸はじっと観察していた。

金沢映実

つかもと景子

石川 武

小野洋子

吉野実紗

畑田麻衣子

吉野正弘

大原康裕

川合耀祐

奥田一平

采澤靖起

平体まひろ

小谷俊輔

文学座公演

スタッフ
美術
乘峯雅寛
照明
古宮俊昭
音響
秦 大介
衣裳
岸井克己
舞台監督
加瀬幸恵
演出補
大内一生
制作
梶原 優
方言指導
三嶋昭代
宣伝美術
三木俊一（文京図案室）
写真撮影
宮川舞子

九演連の皆様へ

『華岡青洲の妻』の文学座での初演は1970年。東京公演に引き続き北陸を経て佐賀、福岡の演劇鑑賞会例会としてお迎えいただき、長崎労演の例会で千穐楽を迎えています。劇団と演劇鑑賞会とは、長い長い時間をかけて異床同夢、つまりそれぞれの活動をしながら同じ夢を見てきたのです。時が流れ、嫁姑の確執のありようも姿を変えてきましたが、マウントの取り合いや、男女平等のはずが仕事の結果だけは男が持っていってしまうような現状に響きあっています。劇団の財産と言える作品を継承し新たな息吹をもたらすには、伴走してくださる演劇鑑賞会の存在が不可欠なのです。同じ夢を追って一緒に走りましょう。

北九州市民劇場 2025年 第473回例会

11月	13日(木)	14日(金)	15日(土)	16日(日)	17日(月)	18日(火)
昼		13:30	13:30	13:30	13:30	12:30
夜	18:30					
北九州芸術劇場　中劇場						

北九州市民劇場とは

会員制の演劇鑑賞団体です。3人以上でサークルをつくってご入会ください。入会にあたっては一年（年間6例会）以上観つづけて下さい。

入会金　大人 2,000円　大学生 1,600円　小中高生 1,300円
月会費　大人 2,300円　大学生 1,700円　小中高生 1,000円

「華岡青洲の妻」からの新入会＝入会金＋11月会費

お問合せ・お申込みは　TEL 582−7200